

府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会々報
2005年 夏号 7月13日発行/季刊
発行人：大崎 清見
連絡先：府中市住吉町 2-30-31.
3-508 Tel 042-368-2183



歓迎！ 一般市民参加

第6回バス見学 参加者募集中

神奈川県立

生命の星 地球博物館

9月22日(木) 8:30~16:30

集合:8:30

大国魂神社鳥居下(旧甲州街道側)

参加費:1000円

申込先:

TEL 366-5689 (佐伯)

335-7457 (平沢)

(締めきり7月末日まで)

主催:府中かんきょう市民の会

1995年3月、横浜馬車道の神奈川県立博物館から小田原市内へ分離移転。常設展示「生命の星・地球」の誕生から現在までの46億年にわたる地球の歴史…のほか、自

然に関する調査・研究、資料の収集など

〒250-0031 神奈川県
小田原市入生田499
電話 (0465)21-1515



② 道路にあふれた散乱ごみ

このごみ置場の表側は一般住宅、裏側には単身者用のマンションと店用の大きな駐車場があります。

ここでは、毎週の月曜日の朝は不燃ボックスからごみが溢れ、時々には写真のようにカラス、猫がごみを荒らします。この写真は多くの問題点を提起しています。



●大きなマンションがあるのに不燃ボックスは2つしかない。

●他市の住民が車でごみを持ち込み捨てて行く。

●不燃ごみ回収は週1回のため溢れる。カラス、猫がそれを狙う。

市当局は、20戸に1個ボックスを設置している。週2回の回収は考えていない。カラス、猫対策は取っていないと云っていますが、近所の住民は毎週掃除に追われてイヤになった。少し不便になってもいいからボックスを撤去してほしいと深刻に訴えています。さて何かよい解決策は？。

現場は武蔵台3丁目ドラッグストア裏

市内のレンゲ田は大丈夫？

2000年7月「古代米づくり」の市民農業大学に参加したSさんは、レンゲまつりが可能な農地の提供者を探していました。その時の手づるをたどって紹介されたのが、私たちがお世話になっている戸塚勇さんです。

戸塚さんには田んぼの提供だけでなく、種まきや除草の指導・テントの運搬や設営の指導・大量の看板類の保管・工作用わら材の提供など、並々ならぬお世話になっており、レンゲまつりの陰の立役者です。あらためてお礼申し上げたいと思います。

そのレンゲまつりも今年で5回目を迎えました。

レンゲ田の風景を残す活動が認められ、昨年の市制50周年に際し、まちづくり活動部門で「都市景観賞」を受賞したことは記憶に新しいところです。来場者はこのところ600人を超え、レンゲまつりは府中かんきょう市民の会の行事として、市民にすっかり定着してきたようです。

みんなで支えてきたレンゲまつり

実行委員を中心としたスタッフは、約半年まえから準備にとりかかりますが、最近は随分手馴れてきて、楽しくやっております。まつり当日はイベントの講師の方々、部外のボランティアの方、市民の会会員など総勢50名が、それぞれの分野で自主的によく動いていただき、そのパワーが一つになって、まつりを成功に導いているのだと思います。



「なぜレンゲの栽培がうまくいかないのだろうか？」実行委員会では、いろいろ調べたり試行錯誤をしています、なかなか決め手がなく頭を痛めています。最初は種子の品質を疑いましたが、自宅のプランターに同じ種子を播くと、よく発芽してたくさん花を咲かせました。次に種子を播く時期と、播く前の耕起に原因があるのではと考えました。昨年の秋は戸塚さんに無理をいってご協力いただき、稲刈りの前に市民の会の有志で種まきをし、耕起をひかえてもらいました。

難しくなったレンゲの栽培

今年のレンゲまつりは好天に恵まれ、市民のみなさまにも喜んでいただき、大盛況でした。しかし残念なことに、レンゲは生育がよくありませんでした。会場を訪れる多くの人が一面のレンゲ畑を頭に描いてきますが、「のぼり旗ばかり目だって、レンゲはどこ？」と探す人もいます。





今年のレンゲの出来具合

結果は前の年よりはややよかったものの、一面のレンゲ畑とはいきませんでした。昨秋は台風の影響もあって記録的な長雨で、雨量が平年の3~6倍に達し、田んぼに水がたまって発芽しない部分が相当でてしまいました。(農工大本町農場が同じ気象条件でありながら、見事にレンゲが咲いたのは種子の量が圧倒的に多かったことと、押立の戸塚さんの田んぼとは逆に耕起して播種したため大雨でも土壌に浸透し、水が溜まらなかったためではないかと推測しています。)

いずれにせよ、レンゲの発芽は秋期の雨量に左右され、多すぎても、少雨で乾きすぎてもよくないようです。

市内のレンゲ田が激減している

私たちは2002年より毎年市内のどこにレンゲ田があるかを調べています。2003年に11カ所あったレンゲ田が今年は6カ所に激減していることがわかり、関係者はショックを受けました。このままでは市内からレンゲ田がなくなってしまいかねません。まつりのスローガン「のこそう! ふるさと景観…府中50景」が、絵に画いた餅になってしまいます。

朝日新聞の「花おりおり」でおなじみの湯浅浩史先生は紙上でつぎのようにのべています。「(レンゲの花畑は)昭和30年代には各地でみられた。姿を消したのは、米作りが早くなった理由が大きい。花後は田にすきこまれ、有機質の緑肥にされた。それが十分醗酵するには一カ月以上必要。五月の田植えでは、未熟なため腐敗し、害を与えてしまう。」

また戸塚さんは、「レンゲを栽培することにより窒素分が過多になると、コシヒカリは茎が倒れやすくなる。そのためレンゲが敬遠されることも考えられる。昔の品種ニホンバレなどは、そんなことはなかった。」とおっしゃっています。私たちが美味しいお米コシヒカリを望むことが、一方でレンゲ栽培の減少という現象をうみだしていることとなります。

以上のような長期的な背景はあったにしても、長年レンゲを栽培していた農家が2年間で半減するのは普通では考えられません。そこで、実行委員会のメンバーが手分けして栽培をやめた農家を対象にアンケート調査(表)をしました。レンゲを播かなかった理由はさまざまですが「害虫が発生する」と答えた方が2人いました。また理由はわからないがここ2~3年出来が悪いと指摘する農家の方もいます。調査を担当したTさんより、この害虫はレンゲなどに発生するアルファルファタコゾウムシではないかと指摘がありました。



市内近辺ののレンゲ田情報も掲示したが肝心のレンゲ田が減っている

質問事項	レンゲを緑肥として使っていた農家の声(2005年6月実施のアンケートより。一部省略)				
	国立市谷保	日新町4丁目	日新町3丁目	国立市谷保下	分梅町3丁目
レンゲ播種をやめた理由(播いたが悪かった理由)	害虫に花を食われたようだ	犬の糞やゴミを捨てられる	市から種が送られてこなかった	相続発生	レンゲに虫がつく。野菜が心配
今後のレンゲ播種の予定	緑肥効果のある蕎麦に変える	今後は不明	市に申し入れてほしい	不明	野菜を作っているのでレンゲは中止
その他レンゲ(田)に関する自由意見	害虫の防除法を知りたい	区画整理の話	市が働きかければ栽培農家は増える		



レンゲ田で異変がおこっている

さっそく東京都の病害虫防除所に問い合わせたところ、以下のようなことがわかりました。アルファルファタコゾウムシ(以下タコゾウムシと表記)は、シロツメクサ、レンゲ、カラスノエンドウなどマメ科の植物に発生し、葉や花を食害する外来の昆虫で、都内では2001年羽田で発見され、その後、青梅・八王子・日野・府中などで発生が確認されています。今年4月28日に押立のレンゲ田でもこの虫の発生を確認したとのことでした。成虫は夏から秋の間落葉の下などで過ごし、晩秋に出て初冬より産卵、3月から5月に長さ5ミリくらいの黄緑色の幼虫が発生し、レンゲなどを食害するようです。幼虫は5月ごろ繭になり新成虫となり再び落ち葉の下で過ごす、というサイクルをくり返しています。

青梅市でも被害がでていると聞き、市役所へ電話で問い合わせしてみると、昨年からの食害を受け、今年はかなり被害がでたそうです。全く育たないところ、少ししか咲かないところなど、数年前のレンゲ風景と比較するとかなりひどい様子でした。

さらにインターネットで調べてみると、タコゾウムシは1982年に九州・沖縄地方ではじめて発生し、西日本から次第に北上、2001年から4年にかけてレンゲ産地の岐阜県で甚大な被害をだしているそうです。その影響で岐阜県の採蜜量は4年間で1/4になっているとか。

府中の場合、農工大本町農場には目立った被害はなく、私たちが実際にこの昆虫に気づいておりません。どこにどの程度タコゾウムシの被害がでているのか、はっきりしていないのが現状です。しかし、押立で確認されているのに加え、青梅市で相当被害がでていることや、害虫の分布がすでに埼玉・茨城にまで広がっていることを勘案すると、被害は今後広がると考えるべきだと思います。市内のレンゲ田は天候不順による発芽不良に加え、害虫の食害というダブルパンチを受けている可能性があります。これ以上レンゲの不作が続くようなことになると、農家の栽培意欲が落ちて市内のレンゲ田はさらに減ってしまうおそれがあります。

当会にとってレンゲまつりは今や看板行事であり、これからの府中のまちづくりを考えると、レンゲに象徴される「農のある風景」はぜひとも残したい景観です。このたび重い課題を投げかけられました。市内のレンゲ田を少しでも残すためには、当会としてできることは積極的にかかわっていくべきではないでしょうか。

そのためには東京都の研究機関のご指導をおおきながら市内レンゲ田の調査を行い、タコゾウムシの発生状況を把握する必要があります。幸い現在はレンゲ栽培に意欲をもった農家がまだいらっしゃいます。これら農家の方々や府中市の担当セクションと連携をとり、市民の会として側面からレンゲ田の維持保全に協力できればと願っています。(野口道夫)



外来昆虫アルファルファタコゾウムシ。左から幼虫、被害葉、成虫 (東京都病害虫防除所大林氏提供)

後世に残るものを

府中市水と緑のネットワーク拠点整備計画に思う

市環境基本計画では、府中市が水と緑のネットワーク構想のもとに、次世代に豊かな水と緑の環境を引き継ぐため、多摩川や用水路、湧水などの水辺環境を保全し、崖線や浅間山などの貴重な緑の保全とともに、これらを緑道で結ぶことによって、市内の自然環境を保全しようとしていることについて、一市民としてその実現を強く期待しています。

市は昨年度から「府中市水と緑のネットワーク拠点整備計画」に取り組みつつありますが、その前に先ずは本基本計画に基づいて市内全域の整備・保全構想を明らかにする必要があります。

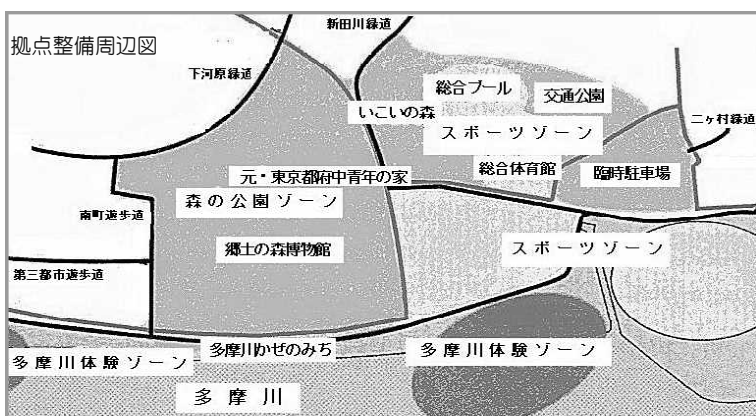
それがあってこそ、拠点として整備される郷土の森を中心とした環境と市内の他の用水路、湧水、崖線、浅間山などの自然環境と有機的にネットワークが出来るのだと考えます。

現在、こうした他地域の構想が不明確ななかで、突如「拠点整備」が浮上し、しかも第一番目に「観光」が出てくることに驚きを感じています。

はじめに「観光」を唱うべきではなく「観光」は後からついてくるものであると考えるべきです。自然保護を目的にして「観光」をもくろみ、やがて破綻が来る事例は多くあります。飽きられ、諦められるからです。そんなときに「やはり、府中へ行ってみよう！」と考えて、実際に行ってみたくなる、時代とともに、さらこの傾向が強まる。これに応えられるような府中にしたいものです。

それと同時に「滅び行く動植物の保護」をどうするのか？

そのため、「自然保護ゾーン」を設け、多摩川との接続場所を設けるとともに、スポーツゾーンや森の公園ゾーンと区分し、生態系保全のメッカにすべきであると考えます。将来のために土地を確保するのも、このためです。



旧東京都府中青年の家があった場所にレストランや土産店のような建物が建設されるなど、安っぽい観光施設が大金を投じて作られるのは言語道断です。

聞けば、体育館も大幅に見直そうとしています。宿舎やレストランや土産店などもここに集中するように検討すべきです。

「水辺の楽校」など環境学習センターにも利用出来、大規模な厨房施設やエネルギー発生・消費施設を集中させるではありませんか

これほどのことを、きわめて短時間で検討し、実行しようとしていることも問題です。将来の変化に対応できるゆとりを持たせることが何よりも肝要であると考えます。

いわゆるハコ物を新たに作るのは、慎重な検討が必要で、場合によっては、それを取り止めることもあるでしょう。

この計画の一部「水辺の楽校」でも同じようなハコ物を作りはしないか？ 多摩川だけでなく、我が市の特長である「府中用水」とうまく連携でき、水と緑のネットワークの拠点に出来るのか？ このことをよく検討して欲しいものです。

拠点整備計画への「市民意見」を拝見して、複数の市民から同主旨のご意見を寄せられていることを知り、意を強くしました。こうした市民の声に耳を傾けるべきです。

また、事業は急いで全てを完成させるのではなく、後の人たちが、この事業を引き継ぐことができるようなものにしていけるようにすれば如何でしょうか。

これからの実施計画に期待したいものです。

(田中正仁)



自然保護ゾーンに移したかった
ニホンタンポポ

「ふるさと景観の保全と創出」で市長へ陳情

当会の会報では「ふるさと景観」の関連記事を、これまで随時掲載していますが、平成17年4月13日発行の春号では、四谷・日新町地域を「ふるさと景観保全地区に指定を」との提案、及び「水に親しむ環境づくりシンポジウム2005」の開催、「農のあるまちづくりを語る会」の開催、市民提案「ふるさと景観の保全と創出」と4カ所に記事を掲載しています。

このことは当会として「ふるさと景観」が「府中の快適なまちづくり」のために、そして「府中市民が日常接する環境」として、現在も将来においても非常に大切なことであるという判断にもとづくからです。

前記、市民提案は、平成17年1月29日開催(第3回)の「水に親しむ環境づくりシンポジウム2005」において、「ふるさと景観の保全と創出」をしよう、との当会の提案が満場一致のご賛同をいただきました。そこで、『この貴重な結果を市民の立場から、ぜひとも府中市当局にお伝えし、ご理解をいただき適切な対応をお願いしよう』との考えから、本年3月11日付け府中かんきょう市民の会名で、府中市長あてに陳情書を提出致したものです。

この市民提案の背景や詳細は、市民の会の会報「平成17年春号」及び「シンポジウム2005」の記録集にまとめてありますので、ここでは紙面の都合で「陳情の要旨」と「陳情書提出後の

要点」についてご報告致します。

陳情書は、「府中市における行政施策の柱の一つであります『水と緑のネットワーク』の一環として、四谷・日新町地域を『ふるさと景観保全地区』に指定し、『ふるさと景観の保全と創出』を

はかってください」と、同地区への「ふるさと景観の保全・創出」を求めています。

また「ふるさと景観の保全・創出」を求める理由として、市民提案までの経緯をはじめ、東京農工大学と当会との共同企画による「水と緑」のシンポジウムにおける一般市民参加者の声、都市農地の多面的機能の貴重性と当会の国への陳情の経過も記し、さらに市民との協同による現地調査の状況や四谷における農を語る会での参加者のご意見、府中市都市景観条例または景観法の適用による良好な景観・環境の形成を行うべきとする機運にもふれ、四谷・日新町地域をモデルとした田んぼや樹林などの保全と創出などを述べて陳情いたしました。



あわせて市民提案の内容について、市担当部局に説明させていただきたいとお願いもし、5月2日にその機会を持つことができました。しかし、これで方向性が見えたわけではありませんので、今後も引き続き働きかけをする必要があります。

なお、府中市議会におきましても「景観法の施行で市の取組は?」、あるいは「農地減少の防止策は?」と、良好な都市環境の形成に関する大事な質疑応答もなされており、市内の緑や環境に高い関心が持たれております。今後の積極的な行政施策の進展を期待したいものです。(大崎清見)



「ふるさと景観の保全と創出」提案に関する5月2日の市当局への説明会の様子

JR南武線新駅周辺開発と環境破壊

現在、JR南武線の新駅開設に伴う周辺整備、「西府土地区画整理事業」が進められている。

地権者を中心に「西府土地区画整理組合」が設置され、行政側も「開発事業本部」を設置し、施行地区面積12.8ヘクタールに対し総事業費94億円の巨費が投じられています。

事業目的は、地域の道路、公園、駅前広場などの公共施設の整備と宅地利用増進ですが、周辺には西府崖線があり、本事業が周辺の自然環境に大きく影響する問題も抱えています。府中かんきょう市民の会では、この問題に対処するため、地域会員を中心に「西府崖線を守るワーキンググループ(WG)」を発足させました。

西府崖線は「府中市段丘崖線緑地保全地域」に指定され、市民の共有財産として大切に保存するよう、市自ら市民に呼びかけている管理緑地で、崖線内には市内唯一の湧水があり、東京の名湧水57選にも選定されています。かつては豊かな湧水量を誇り、生活と農業用水として利用されましたが崖線上の宅地化で、今では「風前の灯」という状況です。

WGはまず、平成12年3月、JR新駅開設で、駅新設に伴う西府崖線を分断する形の道路新設計画があることを知り、西府崖線の貴重な自然林とその生態系を破壊するような道路計画は中止するよう市長宛要望書を提出しています。(幸いこの道路計画はその後の計画変更で中止されました)

●桜並木伐採事件発生!

事業の西府崖線への影響は、まず、西府文化センター西側の農地にあった桜並木(9本)が突如伐採されるかたちで現れました。これは付近の区画整理事業に伴い伐採されたもので、市民から親しまれていた桜の木が、突然、平成16年12月、住民の反対を無視して全て切り倒されました。

早速、市民の会は市当局に異議申し立てをしたところ、桜並木はJA(農協)の所有物であることが判明。JAは、区画整理組合から早急に更地化の申し入れがあり、その指示に従ったまで、との見解が表明されました。

第5小学校は西府崖線一帯と結びついた樹木に覆われた緑地に立地し、自然環境に恵まれており、樹林が多いので野鳥

伐採の危機にさらされる緑陰…苗圃の南崖の並木



の飛来も多く“野鳥モデル校”としても認知された小学校ですが、この恵まれた環境も大きく変わろうとしています。

ここでも区画整理として、南武線側の北側道路の拡幅工事に伴い、桜並木が伐採の危機に立たされています。市は移植補償はすると言っていますが、最終的には教育委員会、第5小側が判断することと、JAの二の舞になることも予想されます。

道路拡幅で校庭敷地が縮小する分だけ校庭の西側へ敷地を拡張させる計画ですが、この部分には南北の道路があり、これをさらに西側に移動させる必要もあって、この道路にあった樹木は、すでに数本伐採されてしまっています。

●当会の取り組み

このように西府崖線一帯が区画整理事業により自然環境が大きく影響されることに憂慮した私たちは、府中市に対して次のような提言・要望を行いました。

①区画整理事業の公開性と都市再生整備計画等に関する市民との窓口の設置。

②新駅周辺の自然樹木の保全と崖線緑地および湧水の保全、特に新駅の南側周辺を含めた西府崖線一帯を「特別緑地保全地区」に指定。

③「特別緑地保全地区」内では樹木の伐採または保全上の手当てをする場合は事前アセスメントの実施及び建物には雨水浸透施設の設置義務化。

④西府崖線沿いの用水路は市民が親水空間として利用できるスポットとして「ホテル池」の整備。

⑤新駅開設と区画整理事業で、2か所の踏切閉鎖・地下道化が決まっているが利便性・防犯上から極めて遺憾。踏切1カ所を残すようJR側と再折衝。

⑥第5小学校、西府文化センター周辺の樹木をこれ以上伐採しない。

これに対し、平成16年12月に市長から、①項の市民窓口機能の必要性は理解している。来年度の組織改正で「水と緑のまちづくりに関する総合的な統括部門」を設置する予定。②～⑥項については、担当部門ともよく協議して、後日文書で回答するとのでありました。

●都市計画地区計画の公告・縦覧と都市計画審議会

今回の区画整理事業に関して、本年2月21日から3月7日まで公告・縦覧があり、市民の会と会員4名が意見書を提出しました。

また平成17年3月28日には「都市計画審議会」が開催され、会員2名が傍聴しました。この審議会で委員の中から次のような意見があがりました。

過去に例がなく珍しい。計画づくりに問題が無かったか反省する必要がある。全体的に市民参加が不足していたのではないかと。

②周辺の環境が変わることに対して意見が提出されているにもかかわらず市の意見、取り扱いは乱暴すぎる。もう少し慎重に扱うべき。特に景観、緑地保全の思考が欠如しており、意見書に対する回答もずれている。

③この周辺地区は自然環境に恵まれた地域であり、計画を進めるうえで環境面の配慮がされておらず、残念である。今後の計画でも緑を残すことを前提に計画作りをすべきである。樹木の伐採は環境を大きく変えてしまう。特に桜は市民の自然環境意識を育てる意味からも大切にすべきである。

これらの意見に対して市の幹部より、今後の都市開発は樹木の保存、移植を前提に進めていきたい。地域開発は周辺の環境を大きく変えてしまうことになり、法規制とは別に各種個別の規制、指導事項を設定して進めていきたい。特に地域別構想は市民参加でまちづくりを進めていきたいとの発言がなされました。しかしながら計画の変更・見直しはされませんでした。

●区画整理、都市計画、まちづくりに関する考察

「区画整理事業」は地権者を含めた一部市民で計画され、市有地もあり、市の税金も投入されているにもかかわらず、一般市民の意見を聞くこともなく、情報公開もないまま計画が策定され、事業が進められている。

計画づくりでは環境面が全く配慮されておらず、地権者の利益のみが優先する。計画図面上にある桜のような樹木も障害物としか見えず、樹齢何十年という大木を何のためらいも無く伐採している。

一度計画が策定されると、どのような問題や指摘があろうと見直しや変更もせず、すべてを排除することのみに専念して計画を進める体質がある。

一般市民にはできるだけ情報公開せず、問題提起されないよう、できるだけ水面下で事を進めてしまう体質もある。

●このような事態を繰り返さないために

①“都市計画(区画整理事業、再開発事業、)”、“まちづくり”には必ず環境アセスメントを実施するよう、市独自の指導要綱を制定し、環境面のチェック機能を行政施策の重要な位置づけとする。

②都市計画やまちづくり、特に地域別構想には必ず当該地区をはじめ、一般市民が参画して計画作りがされるような仕組みづくりが不可欠である。

③「都市計画審議会」の構成員を民間人のみに変更し、本質的な「都市計画審議会」として機能させ、審議会で問題提起された計画は見直し、修正、中止、変更が可能になるよう改める。

④平成17年度の府中市の組織改正で新たに設置された「水と緑事業本部」は、「水と緑のネットワーク拠点整備事業」のみにとどまらず、府中市全体の緑地保全と自然環境破壊に歯止めをかける義務と責任を果たせる機能と役割を持たせる。

「西府崖線を守るWG」のメンバーを中心に市当局に対して新駅周辺の環境保全と樹木の保存を強く申し入れてきましたが、現在のところ、残念な状況となっています。

「都市計画審議会」の委員から、この計画づくりに問題があったことの指摘がなされたように、私たちの主張が正しかったことが立証されました。

環境を無視した開発をすれば市民の理解も協力も得られないことを、ようやく市当局に気づいてもらえたのではないかと思います。

新駅開業まで区画整理事業は続きますが、これからも事業の進展を見守り、市に提言・進言すべきことは積極的に行ってゆきたいと考えています。 (西府崖線を守るWG)

①市民や団体から都市計画についてこれだけ意見が出たのは



植物観察会がおもしろい!

羽尻 元彦

「市民の会」の観察会は、昨年5月、会員の野口さん、大沢さんの発案で始められ、樹木と野鳥の観察会を毎月1回行っています。植物は、森林インストラクターで先生役の野口さん、同じくインストラクターで毎回総括レポートをまとめてくれる内藤さん、府中の事なら何でも知っている物知り博士の大沢さん、植物通の椛島、佐伯、竹内さん、それに何も知らない私の7名が常連の仲間です。

私がこの会に入れてもらったのは、会社を退職後、自然に目を向ける機会が多くなったにかかわらず樹木の名前を全く知らない自分が恥ずかしく、有名な樹ぐらい見分けられる目を持ちたいと日頃から思っていましたので観察会のスタートと同時に喜んで参加させてもらいました。

これまでに12回、農工大、府中の森、多摩墓地、神大寺植物公園、浅間山等で観察会を行いました。先ず現地で野口さんから今月のテーマについて説明を受け、順次、樹木を見ながら解説をしてもらい、更に内藤さん、大沢さんからも補足説明を受けながら午前中見て歩き、素人の私は少しも聞き漏らすまいとメモを取ります。(5月の農工大での観察会ではミズキの大樹に段々に咲いた白色の小花の美しかったこと!)。翌日には内藤さんから詳しい総括レポートがメールで届き、これを受けて植物の雑学に詳しい椛島さんが軽妙に雑学メールを追加するという和気あいあいの毎月です。

恥ずかしいほど無知な私も、コナラとクヌギ、シラカシとアラカシ、サワラとヒノキの違いや山茶花と椿、白モクレンと花ミズキの見分けなどがわかるようになり、街や公園を歩いている、これはエノキだ、クスノキだと興味を持って眺めるようになったことは何よりも嬉しいことです。

誰かが、こんな多士済々なメンバーが揃った会はありませんよと言っていたのですが、全くその通りで、野口さんの気配りもあって毎月の観察会を楽しく過ごさせてもらっています。いわゆる「野口さんと愉快的仲間たち」といった感じです。

私は参加していませんが野鳥の会も「大沢さんと愉快的仲間たち」になっているに違いありません。

これから高尾山に観察に出かける計画もあり、まだ2～3名参加される余地がありますので希望される方がありましたらどうぞご参加ください、ウエルカムです。



深大寺境内のナンジャモンジャの大木

ナンジャモンジャは主に中部地方に分布するヒツパタゴの別名。名前のわからない樹木を「これは何じゃ」と云ってナンジャモンジャと名前を付けたらしい。関東地方やその周辺で名前のわからない大木に付けられた例が多く、明治神宮外苑のヒツパタゴがそう呼ばれて有名であった。モクセイ科の落葉高木で5月頃白い小花を沢山付ける。

府中市内の環境問題と取り組んでいます

府中かんきょう
市民の会



- 市内各所のウォッチングで環境チェック
- 「レンゲまつり」など環境復元活動も
- 先進の取り組みを見学／講座開催など随時
- 市政への提案活動…市環境基本計画など

例会：毎月第2水曜、18時から「グリーンプラザ」7Fで

会費：年1500円／代表：大崎清見

連絡先：府中市住吉町2-30-31 3-508

R100

古紙配給率100%再生紙を使用しています